

4.河川底質

■溶出基準項目

溶出基準項目の11項目について、土壤汚染に係る環境基準値に適合していた。
ふっ素は、昨年度の河川底質調査でも0.15～0.17mg/Lを検出している。
ふっ素は、不法投棄現場上流のRS-1でも検出していることや、周辺の基盤岩バックグラウンド調査において、砂岩などでふっ素の溶出ないしは、含有が認められることから地山由来のものと推測される。

■含有基準項目

含有基準項目の9項目について、土壤汚染対策法の土壤含有量基準値に適合していた。
鉛、砒素、ふっ素及びほう素以外の項目は定量下限値未満であった。
検出された鉛、砒素、ふっ素、ほう素の濃度はすべて、基準値の1/10以下で問題ないレベルと考える。

ダイオキシン類も底質の調査指針値150pg-TEQ/gを大きく下回る結果であった。

不法投棄現場排水の、上流部(RS-1)と下流部(RS-2)で底質調査を実施したが、土壤汚染対策法基準による超過はなく、また2地点においても分析結果の差異はなかった。

調査区域はすべてコンクリート三面張の水路であり、水深が浅く底質が堆積しにくい環境であった。
継続調査はさらに下流部の、底質堆積が多い場所(流れが緩やかな場所等)での調査が望ましいと考える。
ただし、この場合は周辺地形から流入してくる排水の影響に注意が必要である。

5.土壌

■溶出基準項目

すべての項目について、土壤汚染に係る環境基準値に適合していた。

■含有基準項目

鉛、砒素及びふっ素以外の項目はすべて定量下限値未満であった。
検出された鉛、砒素、ふっ素の濃度はすべて、基準値の1/10以下で問題ないレベルと考える。
ダイオキシン類も土壌の調査指針値の250pg-TEQ/gを下回っていた。

S-1地点は、過去の調査履歴からも「180」「190」「160」pg-TEQ/g と
S-2地点「1.2」「1.3」「0.43」pg-TEQ/gと比較して濃度が高く検出されていた。

S-1地点のダイオキシン類成分パターンは、1,3,6,8-TeCDD、1,3,7,9-TeCDD(いずれもTEQ寄与は0)の実測濃度が高く、除草剤CNP等により生成される代表的なパターンを示している。
過去に水田として使用されていた場所などは、この除草剤CNP等の使用履歴がある場合があり
今回の調査地点S-1もこれに該当すると思われる。

6.大気・悪臭

■大気環境

二酸化窒素(NO₂)、二酸化硫黄(SO₂)、浮遊粒子状物質(SPM)、一酸化炭素(CO)、石綿(アスベスト)およびダイオキシン類について環境基準値を満たしていた。
大気環境の状況は、これまでの4回の調査からは急激な変化は認められない。

■悪臭

特定悪臭物質22項目、すべて定量下限値未満であった。

■周辺データとの比較

本調査結果と岐阜市内の大気汚染常時監視測定局データを用い比較を実施した。
比較の結果、近隣の測定局と同程度又はこれを下回る測定結果であった。

夏期調査

測定項目	A-1	A-2	岐阜 北部	岐阜 中央	岐阜 南部	明德 自排局
二酸化窒素 NO ₂ (ppm)	0.004	0.006	0.016	0.021	0.025	0.023
二酸化硫黄 SO ₂ (ppm)	0.002	0.002	0.004	0.005	0.008	-
浮遊粒子状物質 SPM (mg/m ³)	0.024	0.029	0.021	0.016	0.021	0.025
一酸化炭素 CO (ppm)	0.1	0.2	-	-	-	0.5
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.0061	0.010	0.019	0.080	-	-

※ A-1、A-2の値は1日平均値を示す

※ 測定局数値はH16年11月平均値データより

ダイオキシン類はH16年夏期データより

冬期調査

測定項目	A-1	A-2	岐阜 北部	岐阜 中央	岐阜 南部	明德 自排局
二酸化窒素 NO ₂ (ppm)	0.007	0.006	0.013	0.018	0.021	0.020
二酸化硫黄 SO ₂ (ppm)	0.002	0.001	0.003	0.004	0.005	-
浮遊粒子状物質 SPM (mg/m ³)	0.041	0.028	0.010	0.007	0.010	0.015
一酸化炭素 CO (ppm)	0.1	0.1	-	-	-	0.5
ダイオキシン類 (pg-TEQ/m ³)	0.18	0.071	0.033	0.036	-	-

※ A-1、A-2の値は1日平均値を示す

※ 測定局数値はH17年1月平均値データより

ダイオキシン類はH16年冬期データより